

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市アートセンター	評価対象年度	令和5年度
事業者名	川崎市文化財団グループ ・代表者 公益財団法人川崎市文化財団 理事長 中村茂 ・構成員 昭和音楽大学グループ 代表者 学校法人 東成学園（昭和音楽大学） 理事長 下八川共祐 構成員 株式会社プレリューディオ 代表取締役 黒田晋平 ・構成員 学校法人 神奈川映像学園（日本映画大学） 理事長 富山省吾	評価者	市民文化振興室長
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または昨年から変更した取組 ※〔 〕内は〔昨年度〕実績

利用実績	令和5年度総入場者数(小劇場＋映像館): 68,030人〔58,480人〕 1 アルテリオ小劇場 入場者数: 21,081人〔16,097人〕(ライブ配信公演視聴者数 0公演0人〔2公演180人〕) 利用日数実績: 235日/348日(利用可能日数)〔242日/347日〕 日数別利用率: 67.5%〔69.7%〕 公演等回数: 189回〔179回〕 主催事業: 17事業 56公演〔14事業48公演〕うちワークショップ等事業: 2事業10回〔2事業10回〕 共催事業: 3事業 25公演〔2事業23公演〕 提携事業: 4事業 20公演〔4事業13公演〕 貸館: 32団体 85回〔37団体94回〕 2 アルテリオ映像館 入場者数: 45,826人〔41,023人〕 利用日数実績: 324日/348日(利用可能日数)〔317日/344日〕 日数別利用率: 93.1%〔92.2%〕 映画上映事業: 187作品1,467回〔196作品1,411回〕 上映支援事業: 1回〔1回〕 バリアフリー上映: 26回〔27回〕 ワークショップ事業: 14回〔13回〕 トーク等開催事業: 36回〔26回〕 貸館: 14回〔8回〕 シネマ会員: 1,520人〔1,437人〕 3 その他貸館件数(1日3区分別) 楽屋 660回〔670回〕、映像編集室0回〔0回〕、録音室253回〔225回〕、工房666回〔628回〕、研修室491回〔470回〕
収支実績	1 事業活動収支 (1)収入 262,156千円〔261,021千円〕 (2)支出 268,341千円〔258,077千円〕 2 投資活動収支 (1)収入 0円〔 6,664千円〕 (2)支出 644千円〔 1,468千円〕 3 当期収支差額 ▲6,831千円〔8,138千円〕
サービス向上の取組	(指定管理者による新たなサービス改善・向上の取組) 【施設の特徴を活かした公演の工夫】 ○平成30年度から小劇場と映像館の複合施設という特徴を活かしたコラボ企画を実施している。6回目となる令和5年度は、広くなじみのある名作映画を取り上げ「浪曲」で上演するという、ジャンルの横断した意欲的な試みを行った。 ●開館15周年記念事業として令和4年度に配給権を購入した仏映画「どん底(4Kレストア版)」について、全国のミニシアターに働きかけ全国20館での上映につながった。また、東京国際映画祭での特集「黒澤明の愛した映画」に選出され上映された。 【地域特性を活かした運営】 ○地域住民からオーディションで選ばれた「劇団わが町」による市民劇の公演を継続して行っている。令和5年度は劇団員追加オーディションを実施し、10歳から82歳までの49名で、地元の高校生の「登戸研究所掘り起こし運動」に着想を得たオリジナル作品『あしものいずみ』2023～陸軍登戸研究所をめぐる物語～を上演した。 ●映像館では、地域と関連の深い作品を取り上げており、令和5年度は麻生区在住の文化功労者、馬場あき子氏のドキュメンタリー映画の上映、トークイベントを実施した。チケットは完売し、トークイベントでは会場が満員となってしまったため、VLANシステムを活用し別室でのライブ中継を行った。また、多摩区在住であった映画監督岡本喜八氏が2024年に生誕100周年を迎えることを記念し、令和6年2月から毎月1回の上映会と、トークイベントを開催した。 【バリアフリー、多様性への取組】 ○主催事業として外部団体(日本児童・青少年演劇劇団協同組合)と企画した「ベイベーミニシアター」は、乳幼児とその保護者が床に座って楽しめる仕様で実施したほか、配慮が必要な子ども向けの「リラックス公演」も実施した。 ○映像館では、視覚・聴覚障害のある方を対象に、「バリアフリー上映」を15作品23回上映するとともに、障害のある方や小さい子連れの方も気兼ねなく映画を鑑賞できる「フレンドリー上映」を1作品1回実施し、さらに子どもを預かる保育付き上映も1作品2回企画した。また、「バリアフリー上映」については、副音声ガイド付き上映に加えて、バリアフリー活弁士ダンコタロウ氏によるライブ音声ガイド付き上映を6作品で実施した。

3. 評価

分類		着眼点	配点		評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	12	4 (R04 3) (R03 3)	9.6
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	4 (R04 4) (R03 3)	6.4
		当初の事業目的を達成することができたか			
(評価の理由)					
【利用者満足度】 ○小劇場主催事業アンケート、映画ポスタープレゼントアンケート、アート講座アンケート、ウェブフォームアンケート等を実施し、利用者の満足度や意見・要望を把握して事業の企画や施設運営の改善につなげている。 ○小劇場主催事業アンケートで「大変満足」「満足」との回答は89%であったほか、ワークショップ等で「絶対また参加したい」、「また参加したい」との回答は86%と、事業に対する利用者の満足度は概ね高かった。 ○令和4年度から導入したQRコードによるアンケートについては、パンフレットや曲目リストにもQRコードを掲載し、より多くの意見収集に努めるとともに、いただいた御意見は毎週開催する館内会議で共有し、重要度や優先度の高い案件については実現に向け検討を進めるなど、業務改善につなげる取組を行っている。 ●シニア層の利用が多い中でも、インターネットやメールマガジンで情報を入手した割合が18.5%と増加傾向にあることから、ホームページのリニューアルによりアクセシビリティの向上を図るとともに、SNSの発信を強化した。 ●アンケートで要望の高かった小劇場主催公演のチケットレスを令和5年6月に導入し、これまで購入から1週間以内かつ公演の2日前までに劇場窓口またはコンビニでチケット引換を要していたところ引換が不要となったほか、手数料も1枚110円から55円に軽減され、利用者の利便性向上につながった。 ●アンケートで要望の高かった映像館チケットの事前予約制、オンライン販売を令和6年3月に導入したことにより、これまでは当日に窓口でのみチケットを販売していたことから、来館してから売り切れが判明し鑑賞できないなどのトラブルを防ぐとともに、自由席・整理券による入場から、全席指定席制に併せて変更するなど、利便性、サービスの向上を図った。					
【事業成果】 ●小劇場の主催公演として、市民劇団である劇団わが町では地元の高校生による「登戸研究所掘り起こし運動」に着想を得たオリジナル作品『「あしもとのいずみ」2023～陸軍登戸研究所をめぐる物語～』を5回上演し、全公演チケットが完売するとともに、日刊紙をはじめ多数のメディアに掲載され、通常はプロの作品に論評を加える月間総合演劇雑誌にも取り上げられ高評価をいただき、全入場者892名のうち74.0%の方に回答いただいたアンケートでも、87.4%の方に「大満足」「満足」と回答いただいた。また、劇団わが町の監督が「KAWASAKIしんゆり映画祭」の事務局機能を担うNPO法人の理事長であることから、KAWASAKIしんゆり映画祭でドキュメンタリー作品「陸軍登戸研究所」を上映し、映像と演劇というアートセンターが持つそれぞれの資源から、平和について改めて考える機会を提供した。その他の各公演においても魅力ある企画に取り組んだ結果、令和5年度通算での主催・共催事業等の入場者数は、小劇場が21,081人、映像館が45,826人となり、令和4年度と比較して増えている。 ○特定事業の川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)、KAWASAKIしんゆり映画祭においては、共催者として地域と連携した芸術のまちづくりへの支援を行った。これらの催事を支える市民ボランティアを、アートボランティア育成事業によって育成し、市民が鑑賞者として芸術を楽しむ、催事運営でも活躍できるサイクルが定着しており、アートセンターの「“芸術が育ち、創り、楽しむ”という芸術のまちをつくる」という基本方針を達成している。					

収
支
計
画
・
実
績

効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4 (R04 4) (R03 4)	6.4
	支出に見合う効果は得られているか			
	効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	3 (R04 4) (R03 3)	3.6
	収入増加のための具体的な取組が為されているか			
適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	3 (R04 3) (R03 3)	3.6
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
(評価の理由)				
【効率的・効果的な支出】 ○小劇場、映像館の主催事業、特定事業等について、上映素材賃借料等が減少し、消耗品費が計画的に支出されたこと等によって経費削減を図った結果、事業活動支出全体として約268,341千円となり、予算額より約7,966千円減少した。 ●しんゆりチケットセンター開設・運用経費として、チケットセンター運営業務委託料約5,400千円、票券システム管理委託料約447千円、票券システム利用料約2,430千円であるものの、川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)のチケット販売の業務受託料として約4,277千円、販売手数料として約1,926千円の収入を得ることができるとともに、チケット販売に係る職員の業務量の大幅な軽減につながった。 ●アルテリッカしんゆりのチケット販売を受託し、アートセンターのチケット販売と統合したことにより、窓口や電話でのチケット販売時間が平日9時から17時までだったところ、土日を含む9時から19時30分までに拡大するなどのサービス向上につながるとともに、個人情報の管理など事務の効率化にもつながった。 ●しんゆりチケットセンターの開設に合わせホームページを全面リニューアルし約2,000千円を要したが、これによりホームページからのチケットの購入が容易となったほか、旧ページでは別々のナビゲーションとなっていた小劇場・映像館のデザインが統一され、アクセシビリティが向上した。さらに、PC・スマートフォンなど情報にアクセスする側の端末に応じた表示に自動で切り替えるようにしたほか、アートセンターで予定される小劇場の公演、映像館の上映、そのほかワークショップ等のスケジュールを集約した機能の追加、サイト内検索機能の追加、多言語に応じた自動翻訳機能の追加等により利用者の利便性が向上し、長年の課題を解決した。 ●光熱水費について、令和4年度に実施したLEDへの置換や新電力会社への移行等により、電気料を約1,550千円削減することができた。				
【収入の確保】 ○入場料収入について、予算額71,985千円に対し決算額58,442千円と予算額を下回ったが、令和4年度から約5,772千円増加した。 ○補助金収入について、予算額9,480千円を下回ったものの、芸術文化振興基金助成金(映像タイムマシン)、文化芸術振興費補助金アートキャラバン事業(親子で楽しむ夏時間2023)、神奈川県マグカル展開促進補助金(コラボレーション企画)、文化庁劇場・音楽堂等機能活性化・ネットワーク強化事業(劇団わがまち、ワークショップ、しんゆりアウトリーチ、コラボレーション企画)を受け、総額7,872千円を取得した。 ●令和4年度に開館15周年記念事業として配給権を購入した仏映画「どん底(4Kレストア版)」について、他館20館での上映により約1,316千円の収入を得ることができた。 ●新たな試みとして、小劇場の主催公演である劇団わが町の当日配布用パンフレットについて小口広告協賛を募り、11団体から66千円の協賛金を得ることができた。				
【適切な金銭管理・会計手続】 ○会計手続は公認会計士事務所のアドバイスを受けながら適正に処理され、金銭管理は適切なチェック体制により厳格に管理している。				

【収入の確保】

○入場料収入について、予算額71,985千円に対し決算額58,442千円と予算額を下回ったが、令和4年度から約5,772千円増加した。

○補助金収入について、予算額9,480千円を下回ったものの、芸術文化振興基金助成金(映像タイムマシン)、文化芸術振興費補助金アートキャラバン事業(親子で楽しむ夏時間2023)、神奈川県マグカル展開促進補助金(コラボレーション企画)、文化庁劇場・音楽堂等機能活性化・ネットワーク強化事業(劇団わがまち、ワークショップ、しんゆりアウトリーチ、コラボレーション企画)を受け、総額7,872千円を取得した。

●令和4年度に開館15周年記念事業として配給権を購入した仏映画「どん底(4Kレストア版)」について、他館20館での上映により約1,316千円の収入を得ることができた。

●新たな試みとして、小劇場の主催公演である劇団わが町の当日配布用パンフレットについて小口広告協賛を募り、11団体から66千円の協賛金を得ることができた。

【適切な金銭管理・会計手続】

○会計手続は公認会計士事務所のアドバイスを受けながら適正に処理され、金銭管理は適切なチェック体制により厳格に管理している。

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	公演等の自主事業企画が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	12	4 (R04 4) (R03 4)	9.6
		貸館事業について基本方針に基づいて適切に提供されたか			
		アートセンターの基本理念等に基づき、地域と連携したサービスが提供されたか			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4 (R04 4) (R03 3)	4.8
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4 (R04 4) (R03 3)	4.8
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由)				
【適切なサービスの提供】 ○「これまでの芸術のまちづくりを継承し、発展させるアートセンターに」という基本理念のもと、小劇場、映像館ともに、仕様書・事業計画に基づき適切に事業を実施し、主催事業として小劇場では56回の公演等を行い、映像館では1,467回の上映を行った。 ●主催公演として、「しんゆり寄席」や「しんゆりジャズスクエア」において年5回の公演を行い継続的に伝統芸能・音楽催事を提供するとともに、市民劇団である劇団わが町では地元の高校生の「登戸研究所掘り起こし運動」に着想を得たオリジナル作品『あしものいずみ』2023～陸軍登戸研究所をめぐる物語～を上演し多くの反響を呼んだ。また、劇団わが町の監督が「KAWASAKIしんゆり映画祭」の事務局機能を担うNPO法人の理事長であることから、KAWASAKIしんゆり映画祭でドキュメンタリー作品「陸軍登戸研究所」を上映し、映像と演劇というアートセンターが持つそれぞれの資源から、平和について改めて考える機会を提供した。 ○外部団体(日本児童・青少年演劇劇団協同組合)と連携し主催事業として実施した乳児から楽しめる「ベイビーミニシアター」や、小中学生が参加できる演劇・映画双方に渡る夏休み・春休みワークショップ、放課後シアター等、児童・青少年育成の面でも意義のある企画を行った。 ●アートボランティア育成事業「アート講座」について、これまで「芸術によるまちづくり・かわさき実行委員会」が行っていた「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)発アート講座」を改編し、アートセンターの直営事業として「つながる×つなげる～芸術+ひと+まち」プログラムを実施し、舞台や映画、音楽など幅広い文化芸術への知識を深めスキルアップにつながるよう全8回のプログラムを行い延べ325人が参加した。 ○貸館事業については、適切にサービスを提供できたものの施設利用料収入が対予算額、対前年度いずれにおいても下回っており、令和4年度は撮影やセミナー等平日のみ利用する団体があったが令和5年度はそれらの利用がなかったことなどが要因である。 ○地域との連携として、特定事業である川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)、KAWASAKIしんゆり映画祭と、アートボランティアの育成を目的とした「アート講座」の連携により、市民が芸術を鑑賞するだけでなく、ボランティアとして芸術を支援するサイクルを作り、芸術のまちづくりに寄与した。 ○地域へのアウトリーチの取組として、小中学校でのワークショップや高校の演劇部を対象としたワークショップなどを13回開催し839人が参加するなど、若い世代に舞台や映画・映像芸術への興味・関心を高める機会を提供するとともに、コロナ禍において学生生活を送る青少年へのコミュニティ参加の機会を提供した。さらに、今年度は新たに市立小学校特別支援学級で鑑賞型アウトリーチを実施し、劇場に足を運ぶ機会が少なくない児童に対し、慣れ親しんだ教室を演劇空間とすることでリラックスして鑑賞を楽しむ機会を提供した。 ●サービスの利用促進の取組として、映像館の舞台挨拶・トーク企画を令和5年度は36回開催し参加者1,751人と、令和4年度の26回開催、参加者1,230人に対し大幅に増えた。麻生区在住の文化功労者馬場あき子氏のドキュメンタリー映画を上映した際のトークイベントについては会場が満員となり、VLANシステムで1階工房へのライブ中継を行い、合わせて146人が参加して大変盛況となるなど、これらの取組は新たな利用者に足を運んでいただく機会となるとともに、制作者や出演者等との交流の場となるものであり評価できる。 ○利用者への情報提供として、ホームページによる情報発信に加えX等のSNSを活用した継続的な情報発信を行い、小劇場では主催公演情報等(投稿総数2,016件)、映像館では上映内容・時間を毎日発信(投稿総数3,393件)し、アカウントフォロワー数が小劇場は令和4年度1,776人に対し令和5年度1,883人、映像館は令和4年度6,081人に対し令和5年度6,604人と増加した。また、映像館では上映作品の概要や上映スケジュールをまとめた「アルテリオシネマニュース」を毎月発行して会員組織「アルテリオシネマ会員」に発送するほか、区役所等の公共機関に配架し情報発信している。 ●令和5年度のかわさき市民アンケートによる市民の認知度が低いことが課題であり、令和5年度は、市南部への認知向上の目的で、「映像のまち・かわさき」推進フォーラムと連携し、9月以降川崎駅地下街アゼリアのショーケースに、映像館での上映情報やトーク企画等の告知を毎月実施し告知の強化を図った。 ○新規及びリピーター確保に向けたサービスとして、「しんゆり寄席」と「しんゆりジャズスクエア」の「年間パスポート」を令和4年度から再開し、それぞれ販売件数は「しんゆり寄席」が令和4年度16件、令和5年度19件、「しんゆりジャズスクエア」が令和4年度25件、令和5年度41件と好調であり、取組が定着しリピーターの確保につながっている。また、「アルテリオシネマ会員」には「アルテリオシネマニュース」の送付のほか、入場料金の割引や5回鑑賞すると招待券1枚進呈するポイントサービスを実施し、リピーター確保につながっている。					
【業務改善によるサービス向上】 ○収支状況や入場者数等事業の実施状況について、毎週の館内会議や毎月の連絡調整会議で共有し、課題を把握する中で必要に応じて館内にホームページリニューアルに向けたワーキンググループを設置するなど、検討を行った。 ●課題であったコラボレーションスペースの活用について、指定管理グループ構成員である地域の教育機関等と連携し、日本映画大学教授による一般向けの講座「映画風景論」、昭和音楽大学による子供向け「楽器づくりワークショップ」や、「映える写真講座」を実施し、地域との連携の中で市民が参加できるプログラムの提供を行った。 ●従来から課題として把握していたキャッシュレス決済を令和5年3月に導入し、平均して1か月あたり570件の利用がある。また、窓口での売上におけるキャッシュレス決済の割合は令和5年上半期で16.4%、同下半期で18.4%と順調に伸びており、支払方法の選択肢が増えるとともに、違算防止につながった。 ●令和6年3月30日から開始した映像館チケットのオンライン販売について、3月の1か月の映像館のチケット販売枚数のうち11.7%がオンライン販売となり、その後も順調に割合を伸ばしている。また、オンライン環境がない方に対しては、販売開始時間について、オンラインの販売開始を上映日3日前の10時30分からとしたことに対し、窓口の販売開始を上映日3日前の9時からとし、不利益を軽減するよう配慮した。 ○アフターコロナを見据え令和3年度に整備したV-LANの活用について、費用対効果の観点から小劇場の主催事業の配信には至らなかったが、映画上映に伴うトークイベント会場が満員になった際の館内別会場でのリアルタイム放映や、KAWASAKIしんゆり映画祭でのオンライントークイベントなどに利用し、サービスの向上につなげた。					

	【利用者の意見・要望への対応】 ○地域の団体や機関で構成されるアートセンター運営協議会を年2回実施し、地域の利用者の意見を把握している。また、館全体では、週1回運営会議を開催し、スタッフの間での現状把握、情報共有を行うとともに、小劇場と映像館との連携強化、業務改善の取組等について検討を重ね、利用者ニーズの把握と運営の改善に努めた。 ○正面入口付近への自由意見箱の設置や、小劇場主催事業アンケート、映画ポスタープレゼントアンケート、ウェブフォームアンケート等、利用者意見のヒアリングに努めている。特に小劇場の主催公演におけるアンケートについては、劇団わが町の公演アンケートの回収率が74.0%（令和4年度65.6%）、それ以外の公演の回収率についても平均して38.9%（令和4年度36.2%）といずれも令和4年度の回収率を上回っており、来場者の意見を広く収集できている。また、全国公立文化施設協会名誉アドバイザー、昭和音楽大学アーティスティックディレクター、国際児童青少年舞台芸術協会（アシテジ）日本センター常任理事の3名で構成する「劇場アドバイザー委員会」においても、アンケートの回収率について、「全国的に見ても回収率が高くとても良い」との評価をいただいている。 ●新たな試みとして、小中学生を対象としたワークショップでは木の葉型の画用紙に全参加者の感想を書き、それを大木の葉に見立ててコラボレーションスペースの壁面に展示することで、一般の来館者への事業の周知にもつなげた。 ●アンケートで要望の高かった小劇場主催公演のチケットレスを令和5年6月に導入し、これまで購入から1週間以内かつ公演の2日前までに劇場窓口またはコンビニでチケット引換を要していたところ引換が不要となったほか、手数料も1枚110円から55円に軽減され、利用者の利便性向上につながった。（再掲） ●アンケートで要望の高かった映像館チケットの事前予約制、オンライン販売を令和6年3月に導入したことにより、これまでは当日に窓口でのみチケットを販売していたことから、来館してから売り切れが判明し鑑賞できないなどのトラブルを防ぐとともに、自由席・整理券による入場から、全席指定席制に併せて変更するなど、利便性、サービスの向上を図った。（再掲）				
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員（人数・有資格者等）が必要な場所に適切に配置されているか	6	3 (R04 4) (R03 3)	3.6
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3 (R04 3) (R03 4)	1.2
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか（人員配置、マニュアル、訓練等）	4	3 (R04 3) (R03 3)	2.4
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3 (R04 3) (R03 3)	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	3 (R04 3) (R03 3)	1.2
	（評価の理由） 【適正な人員配置、連絡・連携体制、再委託管理】 ○館長、副館長のほか、劇場ディレクター、映像館ディレクターなど、必要な人員が仕様書に即して配置され円滑に業務が行われた。 ○週1回アートセンター職員による運営会議を開催するほか、月1回川崎市と指定管理者関係者による連絡調整会議を行い、各事業の進捗状況・結果の報告、業務改善の検討などを行っている。内容は所管課へ文書等で報告され、情報の共有化を図っている。さらに、アートセンター館長・副館長・総務担当と市民文化振興室職員による定期的な会議を実施しており、連絡・連携体制が十分に図られている。 ○再委託先との連絡調整、適正な監視・確認体制がなされている。また、バリアフリー上映の周知のため、川崎市障害者優先調達推進方針に即し、バリアフリー上映広報宣伝のための点訳及び点字印刷の発注を地元の障害者施設（地域活動支援センター）に再委託し、連携調整を適切に行った。 【担当者のスキルアップ】 ○スタッフが講座や研修に参加し、劇場管理、運営、企画等業務知識の習得やスキルアップに努め、オンラインでの研修にも積極的に参加するなど、様々な観点から実践的なスタッフ教育を実施した。 ○劇場スタッフが全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会や、アートキャラバンが主催する研修会に参加し、劇場の管理・運営に係る知識の習得とともに他の劇場との情報交換を行いスキルアップを図った。 ○映像館スタッフが「全国コミュニティシネマ会議」に参加し、アートとまちづくり、コミュニティシネマの再生等のテーマについて、全国各地の映画上映者らと情報交換を行い、その内容を施設運営に活かすため、スタッフとの情報共有を行った。 ●地域の教育機関との連携として、映像館スタッフが専門知識を活用し、日本映画大学で「こども映画教育」に関する講座を15回受け持ち、映画大学で学ぶ学生に、若年層の映像・映画への興味を育むプログラム作りと実践を指導した。 【安全・安心への取組】 ○事故・災害発生時の対応マニュアルの役割分担等に基づき防災総合訓練を実施し、緊急時に備えた適切な安全対策をとっている。また、専門家（医師）による職場巡視を行い、利用者等の安全確保や施設の適切な管理について改善を図った。 【コンプライアンス】 ○前売りチケット取扱い等で個人情報を扱うことから、川崎市文化財団の個人情報保護方針に則り、厳重に個人情報を管理し取扱うことを周知徹底している。 【職員の労働条件・労働環境】 ○指定管理者である川崎市文化財団は、平成29年度から財団の将来を担う人材の確保と育成に努めるとともに長期雇用やキャリアアップに配慮した就業規則に改正し、賞与の支給制度を設けており、職員の労働条件・労働環境の整備に積極的に取り組んでいる。 【環境負荷の軽減】 ○市の方針に従い、環境負荷軽減型商品の調達の実行、エネルギー利用量のモニターを行い、こまめな消灯と節水を励行するとともにLEDへの置換を進め、電気・水道などのエネルギー使用量の削減及び環境に配慮した業務実施に努めている。				

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	3 (R04 3) (R03 3)	10.8
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	(評価の理由)				
	【施設・設備の保守管理】 ○施設・設備の保守管理については、専門業者に再委託することで適正に実施されており、修繕については、基本協定に基づき適切に実施されている。 ●バリアフリー推進のため、令和4年9月改正のJIS規格に適合し、高齢者や子ども、身体の不自由な方に配慮した自動ドアの駆動装置交換修繕を実施したほか、セットバック部分の歩道について凹凸が生じていたため、歩行に支障のないよう平板の補修工事を実施した。 ●前立腺がんや膀胱がんの手術を受けられた方や、高齢のため頻尿や尿漏れ等により尿漏れパッド等を使用している男性のお客様のサービスの向上に向け、非接触型のサニタリーボックスをトイレブース内に設置した。				

【管理記録の整備・保管】 ○業務記録、修繕記録等を適切に行い、保管している。				
【清掃業務、警備業務、外構・植栽管理、備品管理】 ○新型コロナウイルスへの対策として、各施設の利用終了時には人が触れる部分の消毒や換気の実施、施設各所には消毒液の設置などの対応を行った。 ○清掃業務、警備業務、植栽管理等の施設・設備の保守管理業務については、専門業者に再委託することで適正に実施されており、備品管理についても、基本協定に基づき適切に管理されている。 ○令和5年夏に屋上の植栽が枯れてしまったが、屋上の自動灌水システム及び植栽の管理は適正に行われていたことから、酷暑によるものと判明し、緑化指針等に照らし修復の手法を検討している。 ●施設入口の階段最上部の側溝の植物が枯れ、側溝での転倒のリスクがあったことから、市や地域の管理組合と協議・調整して工事を依頼し、利用者の安全を確保した。				

4. 総合評価

評価点合計	70.4	評価ランク	B
R04	70.4	R04	B
R03	64.4	R03	C

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市アートセンターは、芸術文化の創造、発信及び交流を促進するとともに、芸術文化の鑑賞の機会を提供し、もって市民の芸術文化の発展に寄与することを目的として設置した芸術文化施設であり、運営方針として、第1に「新しい芸術文化を創り発信する(創る)」こと、第2に「芸術文化の担い手を育てる(育てる)」こと、第3に「市民が質の高い芸術文化を楽しむ(楽しむ)」こと、第4に「ネットワーク型アートセンターコアとして芸術のまちづくりをリードする(ネットワークする)」こと、第5に「効果的・効率的運営をして、持続させる(効果的運営)」ことを掲げており、全体評価にあたっては、この運営方針ごとに評価を行う。

第1の(創る)については、「これまでの芸術のまちづくりを継承し、発展させるアートセンターに」という基本理念に基づき、地域に根付いた独自の文化・芸術資源を生かし、地域の創造発信拠点として主催公演の実績を積み重ねた。「しんゆりシアター」では、演劇界注目の演出家を迎え、没後350年のモリエール作「女学者たち」を上演し、市民劇団である劇団わが町では地元の高校生による運動に着想を得たオリジナル作品『『あしものいずみ』2023～陸軍登戸研究所をめぐる物語～』を上演した。また、小劇場と映像館を併設する芸術発信拠点ならではの、演劇と映画のコラボレーションなどの個性的な企画や、外部団体との連携による海外児童劇の招聘等により、幅広い層を対象とした新しい分野の開拓も行っている。

第2の(育てる)については、特定事業である「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)」「KAWASAKIしんゆり映画祭」と、アートボランティア育成を目的とした「アート講座」の連携により、市民が芸術を鑑賞するだけでなく、催事運営にも参加するサイクルの定着に寄与しており、それぞれの催事の共催者の立場として、ボランティアの参画による催事の運営を支援している。また、小中学生から高校生までを対象とした、演劇、映画などの多種多様なワークショップ企画は、アートセンター内での実施だけでなく、アウトリーチ企画として学校に向いて実施しており、若い世代の舞台芸術や映画・映像芸術への興味・関心を高めるとともに、コミュニティ参画のきっかけを提供する試みともなっている。

第3の(楽しむ)について、地元ゆかりの作家やミュージシャンが出演する、主催事業の「しんゆり寄席」「しんゆりジャズスクエア」は、定番企画として評価を得ており、年間パスポートも好評だった。また、子供の発達段階に合わせて楽しめるベビーシアタープロジェクトについて、配慮の必要な子どもを対象としたリラックス公演の設定は、幅広い市民にアートに触れる楽しさを提供する取組である。さらに、映像館では、世界各国の新作・名画・秀作の上映にあたり、バリアフリー上映や、映画監督や出演者によるトーク企画の実施回数を増やし、より多くの市民への鑑賞機会の提供と、多様な映画の楽しみ方の提案に取り組んだ。

第4の(ネットワークする)については、指定管理グループが、川崎市文化財団、新百合ヶ丘を本拠地とする昭和音楽大学、日本映画大学が連携する組織体制であることを活かして地域と良好な連携を行っており、それぞれの大学で学ぶ学生たちに、表現の場や、インターンを通じた社会経験の場も提供している。また、アートボランティア育成事業は、アルテリッカ等の催事を起点とした市民同士のネットワークやコミュニティ形成のきっかけとして機能しているほか、共催・提携事業を継続的に実施していることにより、地域の芸術団体や学校等との協力関係が深まり、芸術による地域の文化振興にも貢献している。

第5の(効果的運営)について、事業活動収入は、入場者の増加による入場料収益の増やしんゆりチケットセンター開設による業務受託料の増などによって令和4年度を上回っており、また、補助金獲得など収入確保に向けた取組は評価できるが、予算額を下回っていることから引き続き収入増加に向けた取組が求められる。事業活動支出は、ホームページの全面リニューアルやしんゆりチケットセンターの開設、映像館チケットのオンライン販売導入等の新たな取組により大幅に増えたことから、事業活動収入は6,186千円の支出超過となったが、運営改善の取組によりこれまでの課題が解決され、利用者の満足度の向上につながったことは一定の評価ができる。利用者からの要望に応えるため様々な改善に取り組みながらも、消耗品費の節減や新電力会社への切り替えによる電気量の削減など運営の工夫を行い、計画に基づいて事業を実施した。

以上のことから、令和5年度は、概ね適正に指定管理業務を実施することができたといえる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・利用者満足度調査について、ウェブフォームによる施設利用者アンケートのQRコードを公演のパンフレットに掲載するなど、より多くの利用者の意見収集ができるよう工夫を行ったが、特に映像館利用者の意見収集については更なる工夫が求められること。設問内容についても適宜見直しを検討するとともに、調査・分析手法を継続的に改善し、分析結果を迅速に施設運営に反映することで、利用者満足度向上を目指すサイクルを定着させること。また、運営協議会等を通じ、地域からの意見を継続的に取り入れること。

・アルテリオシネマ会員の会員増に向けた取組や小劇場における会員組織立ち上げを検討すること。また、小劇場、映像館ともに、幅広い利用者層に向けた効果的な情報発信のために、ホームページ、SNSの積極的な活用をさらに進めること。

・コロナ禍で進めたV-LANシステムの活用、また、ホームページのリニューアル、公演のチケットレス化、映像館チケットのオンライン販売等の利用者サービス向上につながる取組について確実に実施するとともに、検証を重ね、より良いサービスの提供に向け改善に取り組むこと。

・かわさき・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)、KAWASAKIしんゆり映画祭、アートボランティア育成事業などで育んだ、地域団体や市民ボランティアなどとの地域の芸術のまちづくりのネットワークは、「芸術のまちづくりを継承し、発展させる」というアートセンターの基本理念に即していることから、更なる連携、コラボレーション機能を強化し発展させること。

・小劇場・映像館におけるワークショップ事業やアウトリーチ事業については、小学生から高校生までが映像・舞台芸術に触れ、体験する機会を提供することにより、芸術文化に対する感性や創造性を育てる効果が期待できることから、引き続きより多くの多様な参加者が受講できるよう取り組むこと。

・開設から17年が経過し、施設・設備の経年劣化が見られる点について、的確に状況を把握し計画的に施設の小破修繕等を行い、市と協力して持続可能な施設維持に努めること。

・コラボレーションスペースについて、アートセンターの基本理念や運営方針に沿ったさらなる活用を進めること。

・多くの市民に上映作品の情報が届くよう効果的に広報を行い、価格設定も踏まえて入場者の増加による収入の確保に取り組むこと。

・令和5年度のかわさき市民アンケートにおいて「次の施設にあなたは行ったことがありますか。行ったことがない場合には、名称や場所について知っているかお答えください。」という問いに対し、アートセンターについて「行ったことがなく、名称も場所も知らない」という回答が76.7%であったことから、市北部だけでなく中部・南部においても市民の認知度を高められるよう、小劇場、映像館それぞれの公演・上映内容や広報計画について見直しを進めること。